

氷見市立西部中学校



ふるさとを愛し、次代を生きる児童生徒の学園に

昭和29年に開校した本校は、72年の歴史に幕を閉じます。校区は里山に囲まれた田園地帯で、大伴家持や元号令和の考案者 中西 進 氏の歌碑等が多数ある万葉ゆかりの地です。

今年度は、「ふるさとを愛し、次代を生きる確かな力を身に付けた生徒の育成」を教育目標に掲げて教育活動に取り組みました。保護者や地域の方々に支えられ、「社会に学ぶ『14歳に挑戦』」では、起業体験活動として、校区の素晴らしさを紹介し、特産物を販売する活動を行っています。また、「一人一人を見つめ育てる」という基本方針のもと、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に成果をあげることができました。

令和2年4月からは、校区3小学校と統合し、義務教育学校「西の杜学園」が開校します。全教職員による9年間を見通した確かな学力の定着や、「ふるさと教育」を基盤として外国語活動やICT教育の充実により、次代に生きる確かな力を育成する学園づくりを目指していきます。

長い歴史に幕・統合 新たに「国吉義務教育学校」に

高岡市立国吉小学校



地域の熱い思いに支えられ

本校は、明治41年に島崎小学校・高辻小学校・頭川小学校の3校が統合され、国吉小学校として誕生しました。以来、112年間に渡り、7,842名の卒業生を送り出してきました。

不幸にも、昭和22年4月6日未明に起きた火災により、校舎を焼失した際には、決して楽ではない生活の中、1人1日1勺の節米と、1人1日50銭の貯金を地域の方々が申し合わせ、校舎建築資金に充てられたと聞いています。おかげで、昭和23年の3月には、早くも新校舎が落成したのです。

令和2年4月より、国吉小学校は国吉中学校とともに「国吉義務教育学校」として新たなスタートを切ります。学校に対する熱い思いと、未来を担う子供たちの教育を大切にする思いは、今もこの国吉地区に脈々と受け継がれています。

高岡市立国吉中学校



県内初の義務教育学校へ

国吉中学校は、国吉小学校と隣接した立地を活かし、令和2年度から義務教育学校に改編し小中一貫教育を推進することとなっています。

本校は、昭和22年4月、国吉村石堤村2か村立北礪中学校として開校以来、校名の改称や国吉村の高岡市への編入等70年以上の歴史を積み重ねてきました。特に、現在の上皇、上皇后両陛下が昭和34年にご成婚された際、これを記念して杉苗1,000本を学校林に植樹しました。以後60年以上にわたって、全校生徒が地域の方々と共に学校林の保守管理作業を行っていることは他の学校にはない特色といえるでしょう。

現在、来年度開校の「高岡市立国吉義務教育学校」開校に向けて、運動会や学習発表会など様々な活動を国吉小学校と協力して行っています。また、学校のランドデザインや教育計画策定のため、小中学校の教職員が合同研修会を積み重ねています。築き上げられてきた歴史を土台に、新たなステージに向かって歩み出そうとしています。